



敷地の広さを活かして東西に細長い中庭を挟んで平屋の居住棟を配置し、そのまわりを執務スペースなどが取り囲むレイアウトとなっている。奥にある既存建物とは渡り廊下でつながり、スムーズに行き来できる。屋根の小開口は4人部屋の坪庭の位置を示す。

熊本地震の経験から耐震性の高いツーバイフォー工法を採用

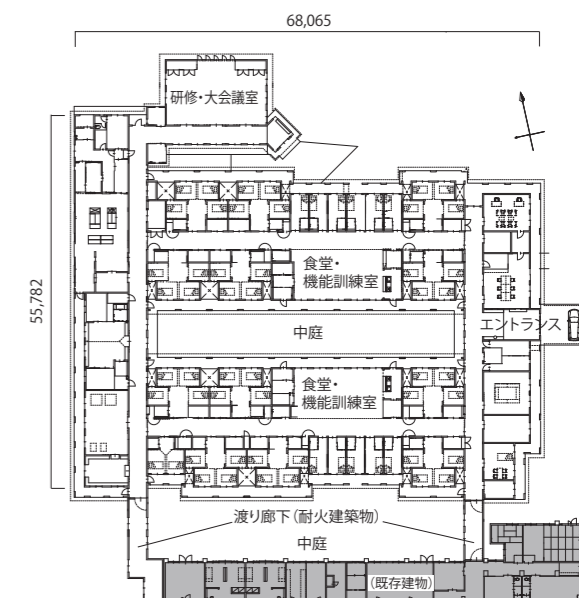
# 平屋建て・延床面積約2,800㎡の 特別養護老人ホーム

2022年2月に宮崎県高千穂町に完成したこの特別養護老人ホームは、既存施設の建て替えとして計画されました。以前の建物はRC造でしたが、既存施設の一部を仮住まいとして使用・改修しながらの工事となるため、工期が短く、騒音・振動が少ないツーバイフォー工法が採用されました。また、工法を選択する決め手となったのが、耐震性と居住性の両立でした。「熊本地震で震度5強の揺れを受けたときに避難が大変困難になった経験から、地震への強さ・安心感をもっとも重要な課題でした。ツーバイフォーなら耐震性に加え、木造ゆえに入所者の方や職員に快適な環境を提供できる利点を感じました」と事業主は話します。

平面計画は、既存施設と渡り廊下でつながる形式とし、細長い中庭を挟んで居住棟が並び、その東側に会議室や事務室が入る棟、西側に調理室・洗濯室が入る棟が配置

されています。50床と多床ながら、全室が窓から外の景色を眺められる設計です。4人部屋は間仕切りで個室のようなプライバシーを確保しながら、各ユニット間に坪庭を設けて十分な採光・通風が確保されています。中庭側の外部通路は生活動線として利用可能で、コロナ禍の感染拡大防止にも効果を発揮しました。

食事やリハビリ、レクリエーションの場となる食堂・機能訓練室と、説明会や研修に用いられる大会議室には、屋根構造にネイルプレートトラスを採用することで大空間を創出するとともに、工期短縮やコスト削減を実現しました。「ツーバイフォー工法は個室から大空間までさまざまな設計が可能で経済的。木造なので建設時・解体時のCO<sub>2</sub>排出も抑制でき、施設の計画に最適だと思います」と設計者も自信をもって語ります。

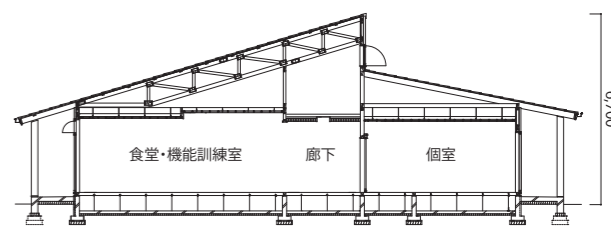


平面図

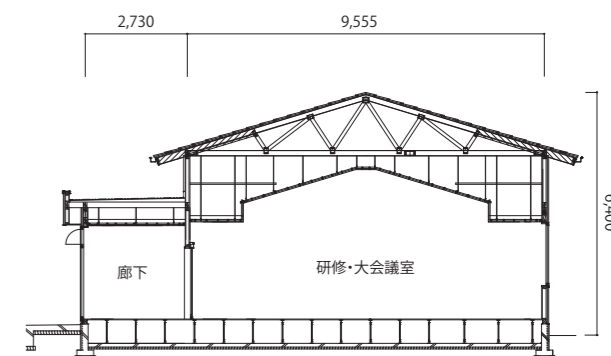
①居住棟の間にある中庭。外部通路がもう一つの生活動線として機能している。②ネイルプレートトラスにより大空間を確保した大会議室。③エントランスのある東側外観。中庭側だけでなく外側にも庇付きの外部通路が設けられている。④視線が交差しないように間仕切りを設けて、個室のようなプライバシーを確保した4人部屋。



工事の様子。工期短縮のため3工区に分けて施工した。さらに、トラス工法を採用したことで工期短縮・コスト削減につながった。



居住棟断面図



研修・大会議室断面図

## DATA 雲居都荘 新館

所在地：宮崎県西臼杵郡高千穂町  
用途：特別養護老人ホーム  
構造：枠組壁工法 [準耐火建築物]  
※一部耐火建築物  
階数：平屋建て  
敷地面積：15,968㎡  
建築面積：2,776㎡  
延床面積：2,776㎡

設計・監理：樹吉高総合設計  
施工：森田建設株式会社  
構造材供給・建方工事：ウイング株式会社 (トラス：樹プライムトラス)  
工期：2021年5月～2022年2月  
法規制：なし